



本校 HP

# 光満つ

札幌市立南が丘中学校 | 学校便り 令和8年6月17日

## 南が丘中学校のめざす姿 ～あいさつ～



あ … あいさつ  
い … いのちを大切に  
さ … さわやかマナー  
つ … つたえる・つたわる

本校では、生徒たちのめざす姿を“あ・い・さ・つ”という言葉に込めています。各教室や体育館など、日常で目に触れる場所にこの言葉を掲げていて、生徒たちは折に触れ“あ・い・さ・つ”を意識して生活しているように感じます。

あいさつの「あ」は、文字通り元気な「あいさつ」です。毎日の休み時間や登下校の時間には、生徒たちの元気な挨拶が聞こえてきます。明るく元気な挨拶を交わし、札幌市で一番の「あいさつ」となるようにと願っています。あいさつの「い」は、「いのちを大切に」という思いが込められています。いじめやいやがらせ、いたづらをなくし、他の人や自分の命を大切にする学校をめざします。次の「さ」は、「さわやかマナー」です。場所と時間に応じた「マナー」を身につけ、さわやかな学校をつくります。校内だけでなく、地域の一員として、さわやかなマナーを実践できる人であってほしいです。最後の「つ」は、「伝える・伝わる」です。すべての活動の中で自分の考えを自分の言葉で表現し、「伝える」力を身につけてほしいと考えています。聞く側も、発せられた言葉の意味を聞き取れるように心を寄せ、生徒たちの心を育てることを目標としています。

今年度もめざす姿“あ・い・さ・つ”が、生徒たちの指針となるように学校全体で取り組んでいきます。子どもたちの成長を、保護者や地域の皆様と共に見守っていきますので、御理解や御協力をよろしくお願いいたします。

### 3年生 修学旅行を振り返って 小林 潤一

修学旅行のねらいはいくつかありました。集団としての目標や、1人1人が見聞を広げることによって得られるものなど、さまざまです。そうした中で、なんといっても学年全体で旅行する最後の機会ですから、まず事故や体調不良になることなく安全に帰ってくることを、そして楽しい思い出ができることが最大の目標でした。

全員が楽しい旅行だったと思えるために、それには、ルール、マナー等をしっかり守り、集団の和を乱さないように行動することが不可欠です。その点、今回の旅行では、3年生はよくがんばっていたのではないのでしょうか。欲を言えばキリがありませんが、行く先々でのあいさつ等を含め、恥ずかしくない行動はできており、班単位での行動もできていました。生徒たちの「楽しさ」を邪魔したものがあつたら、雨がその1つです。特に松島海岸は、青空の下で遊覧船から見せてあげたかったのですが、霧がかかったような雨天だったので非常に惜しかったです。仙台市内の自主研修も小雨の中でしたが、こちらは慣れない土地、限られた時間でありながら、どの班もがんばって回っていました。

反省点があるとすれば、やはり、普段の生活と同様、計画をしっかり立てることがうまくできなかったようです。もちろん、これは旅行中というより事前の準備です。先のことを想定し、どういう準備をしておかなければならないか。これが3年生は不得意です。普段から大事なことはメモをしておく(授業でのノートしかり)という習慣がないため、「しおり」に書かれてあることを上手に活用することができなかったようです。

これからも彼らの成長の糧となる学校行事がいくつかあります。修学旅行の成功を喜び、反省を振り返りながら、また一歩ずつ進んで行きます。最後に、今回、早朝から旅行の準備やお弁当の用意をしていただいた保護者のみなさんの御理解、御協力で改めてお礼申し上げます。

「ピザを作る」と聞くと、具材をのせて焼くだけを想像するかもしれません。しかし今回の宿泊学習は違いました。2年生はまず、生地づくりからスタート。さらにピザ窯を作り、火を起こし、自分たちの力で焼き上げました。火がなかなかつかず煙まみれになる班もあれば、職人顔負けの手つきで生地を伸ばす班もありました。焼きあがったピザを頬張る生徒たちの表情には、達成感に満ちていました。また、地元で育てられた食材を使ったことで、生産者の思いや地域の農業に目を向けるきっかけとなり、「地産地消」の大切さを実感しました。その後はスーパーへ買い出し。限られた予算の中で何をかうか相談しながら、夕食の準備を進めました。宿舎では野外炊事に挑戦。普段は「いただきます」の一言で始まる食事ですが、その一食の裏には多くの手間と工夫があることを体感しました。夜のナイトハイクでは、暗い森の中へ。頼れるのは仲間とわずかな灯りだけです。楽しそうな笑い声と、時々聞こえる悲鳴(?)が森に響き、忘れられない時間となりました。

二日目の朝は宿舎清掃からスタート。「来た時よりも美しく」を合言葉に、自分の役割を見つけながら取り組む姿が見られました。一日目よりも周囲を見て行動する生徒が増え、この二日間の学びの積み重ねを感じました。その後の朝食バイキングでは、前日の野外炊事を経験したからこそ、並んだ料理の有難さをより実感できたようです。アグリフロントでは、農業経営シミュレーションに挑戦しました。作物を育てれば必ず成功するわけではありません。天候や市場価格に悩みながら、各チームが真剣に作戦会議を重ねていました。生徒たちは「食べる」の裏側にある農業の難しさと面白さを学びました。昼食は害獣カレー。農作物被害という社会課題を知るとともに、「命をいただく」ということについて考える機会となりました。

そして、最後はFビレッジ散策。思い切り楽しみながらも、この二日間で学んだことは共通しています。

それは、「食べる」という当たり前のことが、実は当たり前ではないということです。生徒たちは、生産する人、運ぶ人、売る人、調理する人、そして自然の恵みに支えられて私たちの食卓があることを学びました。たくさん笑い、たくさん食べ、たくさん考えた二日間。その経験が、これからの生活の中で生きていくことを期待しています。

## 1年生 校外学習 安岡 賢隆

6月4日、前日まで天気予報が気になる日が続いていましたが、この日は朝から青空が広がり、絶好の校外学習日和となりました。教員は8時過ぎに真駒内駅へ到着。集合開始まではまだ時間がありましたが、生徒たちは次々と集まってきます。仲間との自主研修を楽しみにしている様子が表情から伝わってきました。中には少し緊張した顔の生徒もいましたが、班の仲間と話しているうちに自然と笑顔になり、ほぼ予定どおり研修がスタートしました。

研修中はたくさんのお出来事があったようです。時計台を見学した生徒たちからは「思ったより普通の家みたいだった！」という感想が聞かれました。北海道大学総合博物館では恐竜やマンモスの骨格標本に大興奮。昼食に訪れた肉料理の店では、店主さんの御厚意でジュースをサービスしていただき、生徒たちは大喜びだったそうです。その一方で、1日乗車券をICカードのように「ピッ」としようとして戸惑ったり、昼食のパンの具を落として悲しみに暮れたり、微笑ましいハプニングもあったようです。AOA SAPPOROでは引率の松田先生と一緒に入場しないことを伝えると、生徒たちは少し不安そうな表情を見せました。しかし、互いに声を掛け合いながら意を決して館内へ向かっていきます。その背中朝よりもちょっぴり遅く見えたといひます。

午後3時、再び真駒内駅へ。研修を終えた生徒たちは、少し日焼けした顔で「楽しかった！」と次々に報告してくれました。そしてタイムリミットの3時には全班が帰着完了。たった6時間ほどの研修でしたが、自分たちで考え、協力しながら行動することで大きく成長することができたように思います。

今回の経験は、来年度の宿泊学習、そして修学旅行へとつながっていきます。今回見つけた反省や成功体験を生かしながら、さらに大きく成長して行ってほしいと思います。

保護者の皆様には、健康管理をはじめ、昼食代や交通費等の御負担、そして当日を迎えるまでの励ましをいただきました。心より感謝申し上げます。